

<p>海辺の村の子どもたちの笑顔</p> 	 <p>2012年4月25日発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS) 本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11 TEL & FAX:045-500-9151 E-mail: hands-mindanao@nifty.com http://homepage3.nifty.com/hands/ 郵便振替口座 00210-5-72693 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会</p>
--	---	---

アキノ政権下の貧困対策、教育・医療分野の改革と日本の ODA

桜とそれに続く新緑のなか、日本は年度初めで活気づく時期ですが、ミンダナオは猛暑と少雨の乾季を迎え、学校は5月末まで夏休みです。各パートナー団体からの情報も比較的少なくなります。そんな中、マトトン山麓にあるビラーン民族の村アムグオで、ナバルタビ織の継承者研修を担当している元奨学生スヌーリアから嬉しい知らせが届きました。校舎補修支援のおかげで、ハイスクール運営に政府補助金が出る事が決まったそうです。

この小学校併設のハイスクールは、ビラーン人牧師が伝統文化を受け継ぐビラーンの子どものための学校として、10年程前に開設したものです。しかし、アメリカからの寄付が途絶えて資金が不足し、穴のあいたタン屋根の下での授業、教師給与未払いなどの問題を抱えていました。HANDSの教育支援対象外の地区でもあり、会としての支援は行っていませんでしたが、昨年、屋根の補修を行い、学校運営のための政府補助金を申請したいという約4万円の支援要請を受けました。この政府補助金の効果は、マノボとティボリ民族の学校であるブラクール・ハイスクールの場合で経験済みです。施設や教師数などの条件を満たし、地域の中高等教育を担うと認定されれば、生徒一人当たり年5000ペソの政府補助金を受けられます。

アムグオ村の活動を応援して下さっている会員からのご寄付で、屋根補修費を捻出しました。アムグオ村ハイスクールも、これで学校運営が安定し、小学校を含めた在校生70名の教育の機会が確保されます。

学校は夏休みでも医療支援活動は待たないです。CMIPのヘルス責任者ジョジョより、新学期からハイスクール復学を目指しているエドナの治療費支援の継続要請がありました。精神疾患で2年半休学していた奨学生です。またCMIP対象地域の医療保険加入者リストも届きました。ゴメロ、サムラング他計4地区45名の名前がありました。このほか、68号p2で報告のカルメラの村のように、州都コロナダル市内にあり、行政の指導が比較的行き届いている地域では加入者が増えているようです。

ジョジョからはCMIP対象地区50村のうち25地区で、保険加入の意義や仕組みに関する研修、手続き支援を行う、医療保険加入キャンペーンの申請書も届きました。各2日ずつ50日間をこの活動に充て、予算は約10万円です。私たちの医療支援は月額約6万円で、入院が必要な患者数名を抱えると消えてしまう金額です。最貧層に保険料無料の医療保険が普及することで、私たちの医療支援は巡回診療での患者早期発見や妊産婦検診など、予防面の活動に振り向けることができます。

先日、外務省が作成した「フィリピン国別援助方針」が発表されました。アキノ政権の重点施策にも触れています。所得の再分配、貧困解消の施策として教育の普及、医療保険加入の推進も盛り込まれています。ミンダナオの和平推進、貧困対策などで、前政権より期待が持てる内容です。

私たちでできる支援は限られています。フィリピン人自身によるより良い政治で、人々の生活向上の後押しを期待します。
(山崎)